神戸新聞 2020年12月07日 月曜日 面名 朝一 １４ 1ページ

ＮＩＥワークシート／小学校中学年～高校／社会、理科、総合

はやぶさ2カプセル帰還

豪州で回収 小惑星の石 分析へ

【ウーメラ（オーストラリア南部）共同】宇宙航空研究開発機構（ＪＡＸＡ）の探査機「はやぶさ2」が投下した小惑星りゅうぐうの石が入るとみられるカプセルは6日未明、地球の大気圏に突入し、約30分後の同日午前4時24分（日本時間午前2時54分）、オーストラリア南部ウーメラ近くの砂漠に計画通り着地、回収された。初代「はやぶさ」に続く快挙。打ち上げから約6年間に当たる2195日で52億4千万キロを飛行した探査は完了した。

（3、28面に関連記事）

カプセルは現地の施設に移送され、7日にも内部に小惑星由来のガスが含まれるかどうか簡易検査する。検査が順調なら、早ければ8日にも日本に到着するとみられる。到着後はＪＡＸＡ相模原キャンパス（相模原市）に持ち込んで詳細に分析する。

ガスの検知は、小惑星の試料採取が成功した可能性が高いことを意味する。太陽系の成り立ちや生命の起源に迫る情報を得られる可能性もあり、計画責任者の津田雄一教授は6日午後の記者会見で「中身を見るのが楽しみだ」と目を輝かせた。

カプセルは大気圏で燃え、オーストラリア南部クーバーペディなどでは夜空を走る赤っぽい閃光のような火球として目視された。ＪＡＸＡによると、カプセルは秒速12キロで大気圏に進入するため表面は約3千度の高温になる。

相模原市のＪＡＸＡ管制室でカプセルの帰還を見守った津田氏は「美しい大気圏突入だった。われわれも感動している」とほっとした表情を見せた。

カプセルが出していた追跡用電波から着地した場所を割り出し、上空から捜索に当たっていたヘリコプターのチームが着地の約2時間後、予定地内の砂漠でカプセルを発見、回収した。

はやぶさ2は5日午後、地球から約22万キロ離れた位置でカプセルを分離した後、地球の脇を抜ける軌道に入った。大気圏に突入した初代はやぶさとは異なり、残る燃料で100億キロ先の小惑星「1998KY26」へと11年かけて向かう。

6日未明、オーストラリア南部クーバーペディの上空で観測された、大気圏に突入した「はやぶさ2」のカプセルの火球（いずれもＪＡＸＡ提供）

オーストラリア南部ウーメラ近くの砂漠で回収されるはやぶさ2のカプセル＝6日

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

なまえ【　　】

①探査機「はやぶさ２」が投下したカプセルはどこで回収されましたか。

□□□□□□□ 南部の砂漠

②カプセルには何が入っているとみられますか。

小惑星 □□□□□ の石

③②を調べるとどんなことが分かる可能性がありますか。

□□□ の成り立ち

□□ の起源に迫る情報を得られる

④カプセルが赤っぽい閃光のような火球として見られたのはなぜですか。

秒速 □ キロで大気圏に進入するため表面は約 □ 度の高温になるから

⑤はやぶさ２はカプセルを分離した後どうなりましたか。

残る燃料で □ キロ先の小惑星「１９９８ＫＹ２６」へと □ 年かけて向かった